

スポーツの意味を考えよう

ー足利ミニバスケットボール大会開催に際してー

1. はじめに ーものごとを行うことの意味を絶えず考えようー

ものごとに取り組む態度には、二つあります。一つは、よくその意味を理解して、噛みしめながら行う態度です。もう一つは、「やりなさい」と言われたから仕方なくやったり、単に身体を動かせばよいと思いつつ行ったりする態度です。せっかく何かやるのなら、誰かに言われたから仕方なくやる、あるいは単に身体を動かせばよいという態度で行うのではなく、よくその意味を理解して、噛みしめながら行うのがよいと、私は考えます。

せっかく何かやるのなら、自分がやっていることの本当の意味を理解して噛みしめながら行う方が、より積極的にできます。すると、やっていて楽しいし、創意工夫もできますから、やり方もどんどん上手になります。どのようなことを行う場合も、自分は何のためにこのことを行っているのかを知る努力をすることをお勧めします。また、時には深く考えてみる習慣を身に付けることもお勧めします。

2. 私は、スポーツをする意味を次のように考えます。

①スポーツを通じて躰（しつけ）を身に付けることができます。躰には二つあります。一つは「敬語表現を含むことばづかい」で、もう一つは「美しい立ち居振る舞い（たちいふるまい）」です。松井選手をはじめとしてスポーツを行う人には、「ことばづかい」が正しく、「立ち居振る舞い」が美しい人が多いと言われています。

②スポーツをしていると、強くなればなるほど試合で様々な場所を訪れることができますので、ものごとを広い視野で見る力が身に付きます。離れた所から自分の街の素晴らしさや問題点を見る力が身に付きます。また、世の中にはいろいろな場所があり、いろいろな生き方をしている人がいることを知ることもできます。つまり、スポーツを通じて、世の中を広く見る目を養うことができるのです。

③スポーツを通じて、世の中にはルールというものがあり、ルールの中では自由にどんなことをするのも許されるが、それに反した場合は罰せられるし、不利益な扱いを受けるということを知ることができます。世の中にはやって良いことと悪いこと、つまりルールというものがあり、ものごとには判断の基準があるのだということを知ることができます。ルールで認められた範囲ではどのようなことをやるのも自由だが、ルールに反した行動は一切認められないということです。スポーツも社会も同じですので、スポーツを通じて「規範意識（きはんいしき）」を身に付けることができます。また、「フェアプレーの精神」もスポーツで培うことができます。勝つためには何をしてもよいというのではなく、フェアな方法（やり方）で勝ってはじめて、皆から認められるのです。「フェアプレーの精神」は、生きていく上で最も大事なことのひとつ

です。

- ④スポーツを通じて、一所懸命に、一つの所で命を懸けるくらい熱心に一つのことに打ち込めば、どんどん技術は向上し、上手にものごとを行うことができます。同時に、上には上がいるもので、市町村では勝っても県大会では勝てない、県大会では勝っても関東大会では勝てない、関東大会では勝っても全国大会では勝てない、全国大会では勝ってもオリンピックでは勝てない、オリンピックで勝っても何回も勝ち続けることはできないということ、つまり上には上がいるものだ、だから謙虚にならなければならないということをスポーツを通じて知ることができます。試合にたまたま負けた人は、素直で謙虚な心で勝った人を尊敬し、勝者としてたたえる心を身に付けることができます。試合に勝った人は、負けた人、つまり「弱者」に対して「思いやり」の心を持つこともできます。素直な心、謙虚さや思いやりの心を養うことのできるのもスポーツの素晴らしさです。
- ⑤スポーツを通じて「身体」と「頭脳」を鍛（きた）えることができます。一生を通じて一週間に何日かスポーツをし続けることは、「いつまでも若々しく生きる」基礎を築きます。試合に勝つには、練習方法を絶えず工夫したり、試合のレベルや対戦する相手を研究しなければなりませんから、「頭脳」を鍛えることができます

3.終わりに　ースポーツの素晴らしさを自分なりに見つけようー

私は、スポーツの意味を以上のように考えますが、皆様はどうお考えでしょうか。是非、皆様も自分なりのスポーツの意味をお考えになり、今やっているスポーツを通じて、自分はどのようなものを身に付けたいかを明確になさって下さい。可能であれば、今やっておられるスポーツを一生涯、何らかの形で続け、楽しく意味ある人生をお歩み下さい。